

「キャリアプロ」「BA-SE」以外の サステイナブル・サポートが実施している 就活困難学生・無業の若者の就職サポートのご紹介



「ぎふキャリア」

バイトが続かない、就労が難しいなどの困り感があるが、サポートを希望しない方向けに、気軽に参加できる単発のケア付きバイトから始められるキャリアサポートプログラムです。個別面談、働く準備講座(オンデマンド)、企業見学やインターンシップなどを行い、より就労に向けたプログラムを提供します。



「ノックス岐阜」

卒業見込みがあり、診断のある学生対象。
 ・就職準備プログラム
 ・リフレッシュプログラム
 ・個別カウンセリング
 ・保護者対応
 ・レクリエーションプログラム
 ・職場実習サポート など



「大卒無業者を 孤立させない！」 プロジェクト

<https://sssocialaction.com/>



キャリアプロ実践報告会2021にご登壇いただいた大学関係者の声

安田和夫氏
 (岐阜聖徳学園大学 学園支援センター長
 / 教育学部教授)



大学での面談の時、それまでは自分が興味のあることをテーマに一方的に話していた学生が、キャリアプロとBA-SEに参加するようになって、自分の良さや強みを発揮して、まるでスポーツキャスターのように、場を盛り上げて相手とのやり取りを楽しむ姿が増えてきた。大きな変化である。現行のプログラムに要望はないが、今後、より多くの学校関係者に知ってもらい、学生が利用できるようなといい。困難を抱える学生の可能性を見だし、社会全体で継続的に支えていくことができる取組みをみんなで考えていきましょう。

稲葉政徳氏
 (岐阜保健大学短期大学部リハビリテーション学科講師)



本学では、入学式の後に保護者会があり、学生だけではなく保護者へもキャリアプロを紹介し、意識づけをさせていただいています。もし学生本人や保護者から学年担当教員へ相談があれば、キャリアプロ事務局へ学生を紹介させていただいています。入学時から修学ならびに臨床実習、就活に苦勞しそうな学生に声をかけ、早めの対応を行うことが大切だと感じています。今年度、キャリアプロとBA-SEを利用した学生は、大学以外の場所で仲間に関わることができていて、積極性が見られるようになったことを嬉しく思っています。この春、無事に卒業しました。本人は、コミュニケーション面の課題から、卒業後も就活対策も含めてBA-SEなどを利用したいと自ら望んでいます。キャリアプロの存在に感謝するとともに、今後の発展に期待いたしております。

最後に、プログラム担当のスタッフより、みなさまへ

後藤千絵
 (サステイナブル・サポート代表)



サステイナブル・サポートは、なかなか主体的に動くことができない学生や若者と「つながり」を維持する仕組み作りを試行錯誤で取り組んでいます。彼らが他者との関わりを通し「自分らしさ」を見つけていくために、キャリアプロは徹底的に一人ひとりに寄り添ったサポートにこだわっています。一般的な就活スキームに乗れない学生や若者でも、自分のペースで自立に向けて動き出し、社会の中で自分の役割や仕事を得ることで、表情が変わり、イキイキと自分の人生を歩み出します。他の学生より少し違ったり時間がかかったりする学生・若者を決して見捨てない、そんな仕組みを皆様と共に社会に創り出していきたいです。

三ツ口和美 (キャリアプロ)



キャリアプロは、「行ってもいいし、行かなくてもいいけど、予定がないから行ってみよう!」と、ゆるーくつながり続けられる場所を提供しています。とはいえ、案内だけで待つことはせずに、個々に合わせた声掛けも行っています。学校以外の場所で、ちょっと役に立つことがあって、楽しい時間もある。そんな環境で時間をともに過ごしながら、学生の皆さんが経験や小さな変化を積み重ねることのお手伝いをしています。

三石裕美 (BA-SE)



いつかは働こう、社会には出ようと考えているけれど、今すぐには積極的には動けない... そんな若者のサードプレイスがBA-SEです。就活を急がず仕組はないけれど、同世代の仲間と繋がり、社会と繋がってける仕組みがここにはあります。初期メンバーが作ってくれたBA-SEのテーマソングのワンフレーズ、「あなたの心に寄り添うBA-SE」を今後も実践していきたいと思っています。

誰も「孤立」させない

わかものの「ひきこもり」を防ぐ 途切れないサポート

キャリア支援プログラム

キャリアプロ



「のりしろ」のある連携のしくみ

大学内に埋もれてしまっている就活・就労に困難を抱えた学生への対応を大学任せにすることなく、地域や外部の様々な組織や人たちで支える。在学中から彼らにかかわることで切れ目ない関係を保ち、彼らは卒業後も社会との接点を持ち、本人に合った就労や生活が選択でき、納得のいく人生を歩むことにつながると考えます。

●一般社団法人サステイナブル・サポート

〒500-8175
 岐阜県岐阜市長住町2丁目7番地
 アーバンフロントビル3階
 TEL : 058-215-1931
 FAX : 058-215-1932
 2015年7月10日設立
 MAIL : info@sus-sup.org
 URL : <https://sus-sup.com/>

●キャリアプロ

〒500-8175
 岐阜県岐阜市長住町2丁目7番地
 アーバンフロントビル3階
 TEL 070-5579-7747
 MAIL : career-pro@sus-sup.org
 URL : <https://caree-pro.com/>

●BA-SE

〒500-8182
 岐阜県岐阜市美殿町40 矢沢ビル3階
 TEL 080-4730-0092
 MAIL : hello@gifu-career.com



日本財団2021年度助成事業



一般社団法人サステイナブル・サポート

まず、キャリアプロが考える
社会にある課題について
ご説明します



大卒無業

約 **10人** に **1人** ※1

※1 文部科学省 令和3年度学校基本調査(2021年)
※2 総務省 労働力調査(2021年)
※3 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 2020年度 東海3県・大学の就職状況に関する調査(2021年)

たとえ大学を卒業したとしても、社会の中で孤立し、困難な状況に陥るリスクを抱える現代社会。こうした背景には、大学における就労困難学生の実態把握や、無業のまま卒業する彼らを支える支援体制に課題があります。彼らの多くは適切なサポートにつながらず、バイトなどの非正規雇用を転々とし、失敗経験を繰り返しどんどん自信を喪失しています。それが長期化・複雑化すれば、社会参加意欲が減退し、ひきこもりや精神疾患へとつながっていきます。

卒業・中退後、所属を失った若者への公的な支援はあっても、その認知度は低く、多くの若者が社会の中で孤立している実態があります。



若年無業者

57万人 ※2

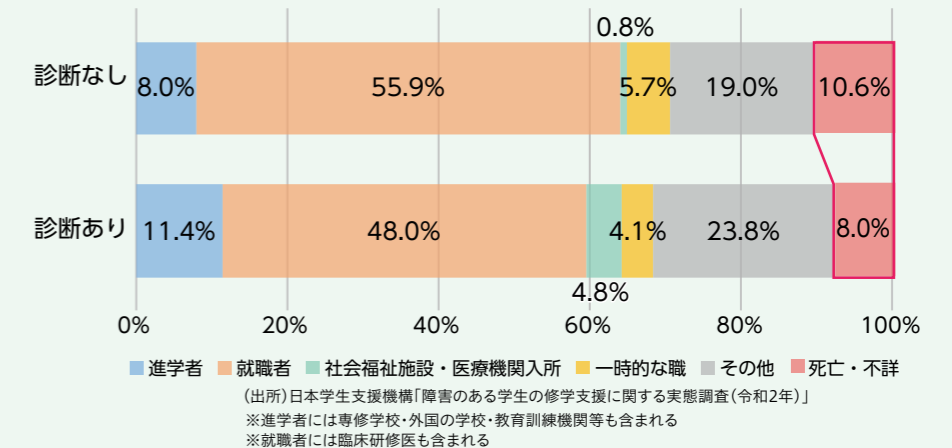
東海3県の未就職卒業生 支援体制のある大学のうち、 「学生と卒業後連絡が取れない」 課題を抱える大学



90% ※3

卒業後の進路は？

発達障害診断のない学生の進路不詳状況は、診断のある学生(8.0%)の約1.32倍。また、発達障害学生の福祉や医療等へつながった人数が52人であるのに対し、診断のない学生は5人とどまっています。就職・進学した者の割合に関しては、診断のある学生が59.4%、診断のない学生が63.9%と大差はないが、就職・進学に至らなかった場合の進路に関して、診断のない学生に対してはフォローができていない状況が伺えます。



診断がないと福祉支援には
つながらない…

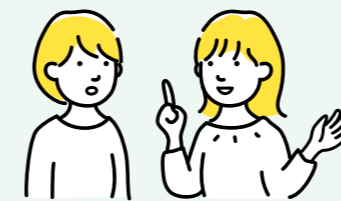
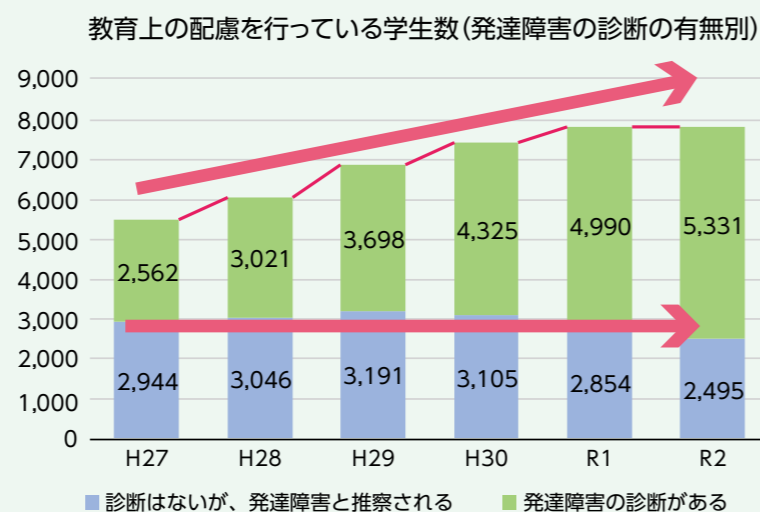
大学で配慮を行っている 学生はどれぐらいいるの？



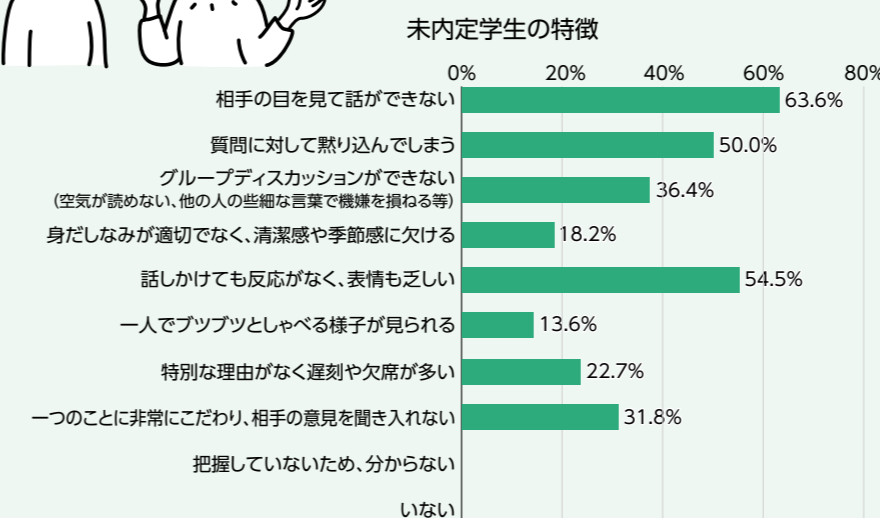
障害学生のサポート体制は
整ってきているけど…

近年、発達障害診断のある学生数は急激に増加しています。発達障害学生の増加に伴い、教育上の配慮を行っている学生数も増加しています。また、診断はないが、発達障害があることが推察されることにより、学校が何らかの支援を行っている学生は2,495人に上り、障害学生ではないが修学上の支援を要する学生が毎年一定数いることが見受けられます。

※「令和2年度調査結果における障害学生数の変動は、コロナ禍による登校制限等という特殊な状況の影響が大きいものと思われる」という所見が、令和3年10月26日出されている。



コミュニケーションが苦手…
質問に答えられない…



その学生の特徴は？

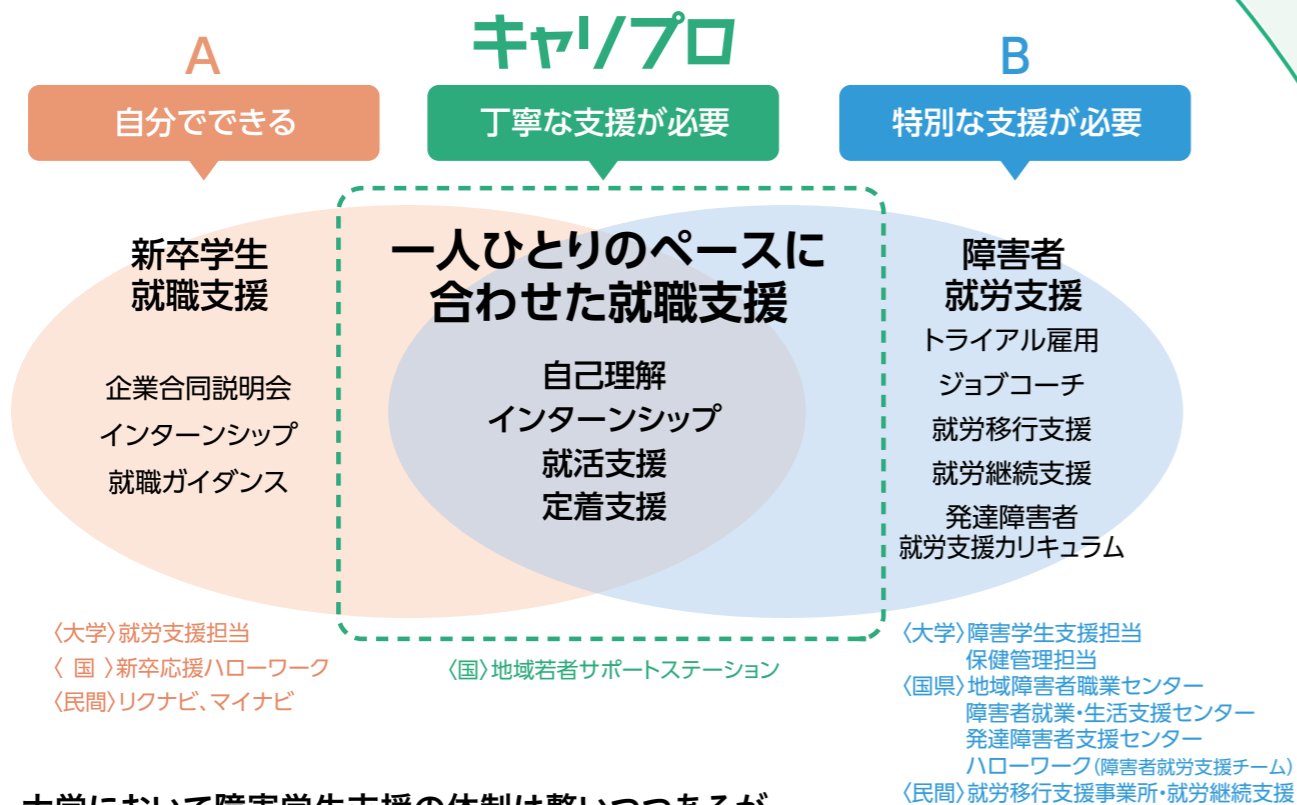
コミュニケーションに問題がある学生が多い実態に対し、学内ではそうしたサポートが十分に行えていない。三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の協力により、東海地方の大学に対し実施した未内定者への対応に関するアンケートによると、未内定者には「相手の目を見て話ができない」(63.6%)「話しかけても反応がなく、表情も乏しい」(54.5%)「質問に対して黙り込んでしまう」(50.0%)等、その多くにコミュニケーションスキルの課題が見られました。

学校を卒業後、学生が孤立しないために 外部資源として サポートできるしくみ

では、他にもある
学生支援との
違いは？というところ...



キャリアプロといろいろある大学外の既存のサポートとの違い



こんな困り感のある学生をサポートします

対象となる学生は、既存の支援にはつながりにくく、また大学等においても問題が表面化しないことが多々あり、学内の支援(相談室、保健管理センター、キャリアセンター等)においても対応できていない場合が多いと考えられます。

しかし、学生生活において次のような状況が見受けられる学生が一定数いると感じている教職員の方は少なくありません。

- ✔ 就活を進める中、自分に合わない仕事を希望している。
- ✔ 就職活動がうまくいっていないようだ。どうしていいかわかっていない。
- ✔ アルバイト、インターン、サークルに参加できていない。
- ✔ 修学・卒業も厳しい。
- ✔ 学業と就活の両立が難しい。

こんな状況や行動が見られる学生はキャリアプロへご相談ください。



大学において障害学生支援の体制は整いつつあるが、 障害診断のない要支援学生に対する支援体制は不十分

「キャリアプロ」の目的は、学校等を卒業/中退した学生が、適切な支援につながれず、孤立状態になることを防ぐことです。

上の図のAの「自分で就活ができる学生」は、自力で合同説明会やインターンシップに参加し、就職を決めています。

Bの「特別な支援が必要な学生」には、福祉的就労として障害者就労支援があります。トライアル雇用やジョブコーチ、就労支援プログラムなど、大学・国県・民間においても、さまざまな支援事業が行われています。

しかし、その間にいる「自力で就活ができないが、診断や手帳の取得がなく福祉にもつながらない学生」は、自分で情報を取得することが苦手なうえ、国が実施している地域若者サポートステーション以外のサポート機関がありません。

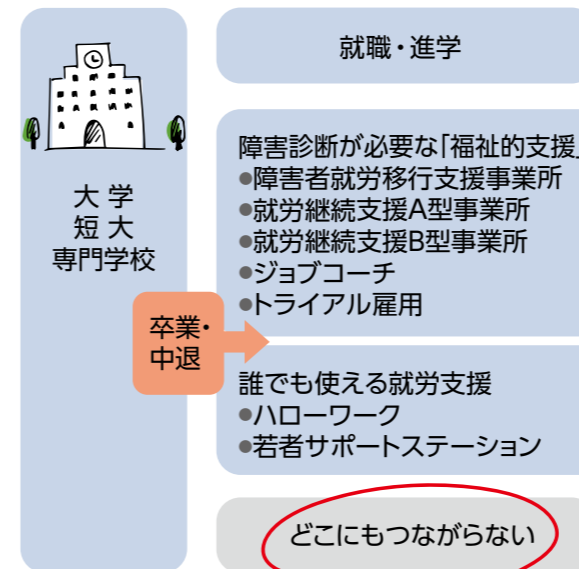
そのため、在学中に彼らにつながるものが、とても重要だと考えています。

キャリアプロは、在学中につながり、▽自己理解、▽コミュニケーション力の向上、▽働くための知識とスキルの習得、▽多様な価値観の理解を深めるためのプログラムを提供し、自分に合ったキャリア選択が可能となることを目指します。

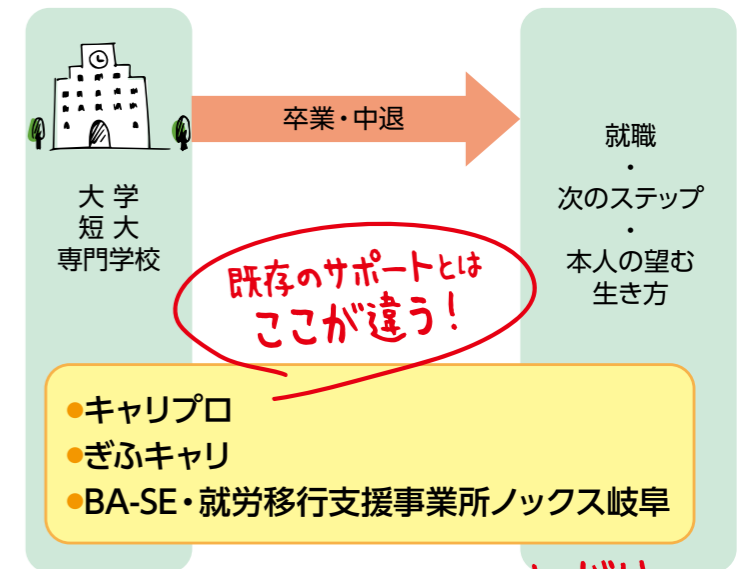
適切な就労支援により就職が可能な学生は就職を目指し、就職後のフォローアップも行う。また、福祉的なサポートや治療が必要と思われる学生には医療等の社会資源へつなぐ。

また、そのどちらにもつながらない学生に対しても、2021年度より始めた「BA-SE」「ぎふキャリア」(※裏表紙で説明)で、途切れないサポートができる体制となっています。

困り感のある学生の卒業後の進路



サステイナブル・サポートの「のりしろのある」サポート



在学中から途切れなくつながり続けることで、孤立を防ぐ。

具体的にどんなことをしているのかを一挙ご紹介！



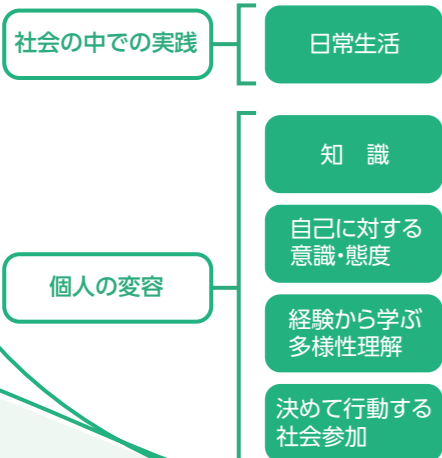
キャリア支援プログラム

キャリアプロ

事業概要

2017年より、主に大学生、専門学校生を対象に、働くための「基礎力」を身につけるプログラムを提供しています。

▶ 在学中より、バイトやインターンなど社会での実践と、ビジネスに必要なスキルや多様性の理解を学び、卒業後は次のつながりを得ることをめざします。



次の場所につなぐ！
卒業後の社会とのつながりがある

自分らしい働き方が
実現できる環境に出会う

サステナブル・サポートが
実践している2つの学生支援

「キャリアプロ」
在学中からのサポートで、
働くための力を養う

「BA-SE」
友人がいない、卒業後に所属を
失くした若者の居場所

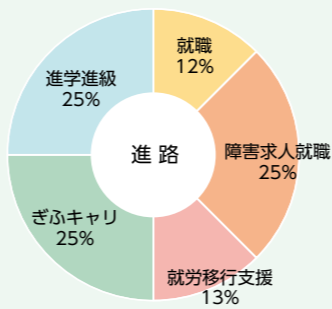
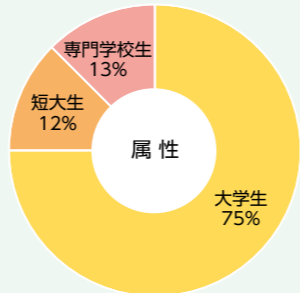
講義型、居場所型、とサポートのアプローチは
違いますが、自信を無くした若者への寄り添
いはわかりません。

最初は口数も少なく、周りの人と関わろうと
しなかった若者が、ゆっくりと場に慣れ、楽し
そうに過ごすようになっていく様子が見受け
られます。

まずは、ここに来てもらい、その場所で安心し
て、コミュニケーション力を育み、自己受容、
多様性理解を深め、自分に合った就労へと向
かっていきます。

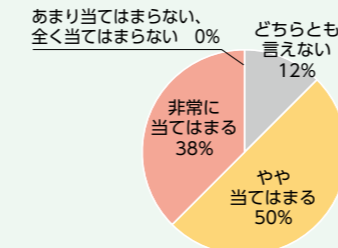


キャリアプロ登録者

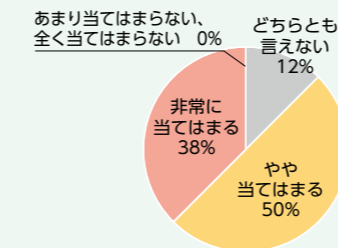


BA-SE登録者の変化

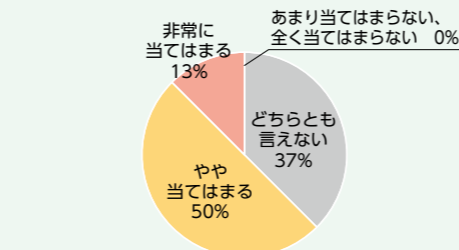
●BA-SEの一員であることを実感できている



●頼りにできる人がいる



●自分の能力や良さを活かせていると感じる



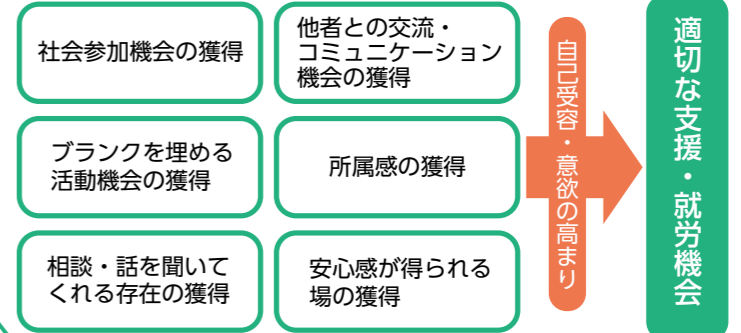
キャリアサポートスペース

BA-SE

事業概要

大学等を卒業して所属を失った若者が自由に利用できるサードプレイスの提供

▶ リラックスできる空間、ミニ講座、ボランティア機会、交流機会、面談を通して、社会への安心感と自己受容を高め、就労機会へとつないでいきます。



提供プログラム



資格ナビ〜中国語の基礎その他〜実施の様子
プチボランティアアワーで作成した折り鶴
ボードゲームで交流

提供プログラム ジョブゼミ



- ・就活の流れを知る
- ・面接トレーニング
- ・ディスカッション対策
- ・ビジネスでのシーンのマナー・文書・メール作成

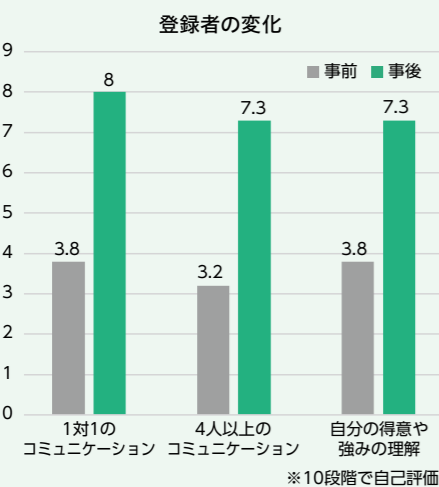
サークル



- ・聞き方・話し方・伝え方
- ・模擬インターンシップ
- ・チームビルディング体験
- ・グループダイアログ



- ・ボードゲーム・カードゲーム
- ・トークゲーム・レクリエーション (外出あり)



キャリアプロに参加することで、コミュニケーションスキルは全体的に上がっています。1対1、1対複数でのコミュニケーションスキルの向上が特に大きな変化が見られ、また、自己理解も促進されています。

一方、個人差があり、変化の少ない学生は、自分のことが好きでなかったり、得意や強みが分からないと答えています。このことから、自己肯定感の低さや親の無理解がその根底にあると考えられます。

2021年度のキャリアプロでは、参加者全員が次のステップへとつながりました。

キャリアプロ登録者のモデルケースを紹介



CASE 2 卒業時に障害者枠で求人就職決定！

学校より紹介を受け、低学年からキャリアプロに登録。まずは大学卒業を第一としてプログラムに参加。積極的になれないこともあったが、スタッフの声掛け、プログラム内でのフィードバックで参加を継続でき、卒業見込みとなった段階でインターンシップや職場見学を行い、自分でできると感じられた業務で就職に結びついた。

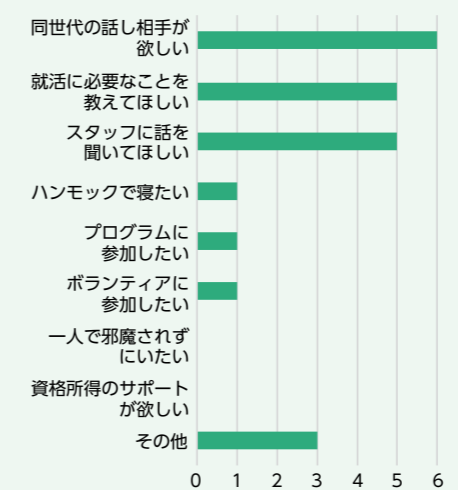
CASE 1 卒業時に就職決定！

学校の就職活動にのれず、インターンシップにも参加できないまま悩んでいた時に、キャリアプロに登録。参加学生やスタッフ、ボランティアスタッフとかかわることで、職種のごだわりに気づき、幅広く考えられるようになった。その後当初希望していなかった職種のインターンシップに参加することができ、就職に結びついた。

CASE 3 卒業後に「ぎふキャリア」や就労移行支援事業につながる

低学年時にキャリアプロに登録。参加していく中で少しずつコミュニケーションが取れるようになり、プログラム参加にも積極的になっていった。卒業年度に就職活動をするころまで辿り着けなかったが、スタッフとの関係性ができていたことで、その後の相談や支援を継続したいと意思表示があり、次につながった。

BA-SEではどのように過ごしたいですか



BA-SEの登録時には、話し相手が欲しい、就活に必要なことを教えてほしいという要望が多く、誰かとの交流を望んでいると考えられます。一方で、身だしなみにあまり気を遣っていない印象の人が多く、ほとんどがコミュニケーションをとることに何らかの不自由を感じており、中には発話がほとんどない人もいました。

しかし、プログラムに参加したり、スタッフや他の参加者と遊んだりすることで、BA-SEの一員であることが実感できている人は87.5%、頼りにできる人がいると回答した人の割合も87.5%、自分の能力や良さを活かせていると感じる人は62.5%いました。このことから、所属感や安心感が得られ、自己受容につながっていると考えられます。